

(別紙 1)

「日光・吾妻山地緑の回廊」の概要

1 設定の趣旨

- (1) 野生動植物の生息・生育地を結び、種の保全や遺伝的な多様性を確保するため、保護林相互を連結してネットワークを形成する「緑の回廊」を設定しています。
- (2) 栃木県北部から福島県にかけては、「奥会津森林生態系保護地域」、「吾妻山周辺森林生態系保護地域」のほか、「大佐飛山地植物群落保護林」等の保護林を設定しています。
- (3) これらの保護林を結び、回廊の機能をより高めるため、日光～那須岳～安達太良山～吾妻山にかけて緑の回廊を新設・拡充するものです。
なお、従来の「日光・那須塩原緑の回廊」は、これに統合して一体的に管理します。

2 区域設定の考え方

日本海側と太平洋側の気候の移行地帯であり、それぞれの特質に応じた多様な植物群落が見られることから、標高の高い奥山から低山を含め、これらの保全を図るとともに、猛禽類の生息環境も考慮し、できるだけ広範囲に設定します。(拡張する面積：約69千ha、既設の面積：約28千ha)

3 森林の取扱いの考え方

- (1) 現況が緑の回廊としての機能の発揮にふさわしい森林の内容となっている場合は、適切にその保全に努めます。
- (2) 森林整備の必要がある場合は、植生の状態に応じて、下層植生の発達や裸地化の抑制を図ることとし、緑の回廊の全体として樹種構成、林齢、樹冠層等の多様化を図るための森林整備を実施します。
- (3) 人工林については、適期に保育、間伐を行い目的に応じて適切に管理していきます。
- (4) 緑の回廊としての機能の発揮に支障が生じる又は生じるおそれがある場合は、その対応を検討してまいります。

4 緑の回廊のモニタリングについて

野生動植物の生息・生育等のモニタリングに当たっては、学術的知見を有する者の協力を得るとともに、その結果得られた知見については、希少動植物の保護に配慮しつつ、広く情報の公開に努めるとともに、緑の回廊の維持管理に適切に反映させることとします。

(別紙2)

「緑の回廊設定委員会」委員名簿

氏名	所属等	分野等
櫻村 利通 (座長)	福島大学 名誉教授	学識経験者
木村 吉幸	福島大学 教授	学識経験者
谷本 丈夫	宇都宮大学 名誉教授	学識経験者
小金澤 正昭	宇都宮大学 教授	学識経験者
杉田 久志	森林総合研究所東北支所 森林生態グループ長	学識経験者
佐藤 達雄	福島県 自然保護課長	行政
高久 健一	栃木県 自然環境課長	行政
兼子 司	福島県 天栄村長	行政
斎藤 文夫	栃木県 日光市長	行政
矢吹 良美	福島県森林組合連合会 代表専務理事	林業
高村 正勝	栃木県森林組合連合会 理事会長	林業
今野 文治	新ふくしま農業協同組合 営農指導員	農業
星 一彰	福島県自然保護協会 会長	自然保護団体
高橋 淳一	高山の原生林を守る会 会長	自然保護団体
高松 健比古 (副座長)	栃木県自然保護団体連絡協議会 代表	自然保護団体
遠藤 孝一	財団法人 日本野鳥の会 栃木県支部 副支部長	自然保護団体
阿部 多一	(社) 福島県猟友会	狩猟関係団体
板橋 一好	(社) 栃木県猟友会 会長	狩猟関係団体
高橋 雅行	福島民報 編集局長	マスコミ
加藤 卓哉	福島民友 編集局長	マスコミ
大瀧 順朗	下野新聞社 報道センター長	マスコミ
中野 圭一	関東地方環境事務所 国立公園・保全整備課長	オブザーバー